

問

## 津野町交流20年の成果と今後は

町長

### 多大な意味があり、ステップアップを

問 今までの交流事業の内容は。

答 小学生交換留学を含む町民相互友好に関する交流事業・産業に関する交流事業・教育文化に関する交流事業の三つの柱で進めている。

平成24年からは職員による人事交流研修が始まり、本町からは5人目の職員を派遣している。

20年で延べ892人

で訓子府町と津野町が半々の交流が行われている。

問 今後の交流事業への考え方は。

答 さらに交流の輪を広げてお互いに有益で多くの人が参加できるプログラムに発展させたいと考えている。

問 20周年記念事業の内容と、その他の事業の予定は。

答 津野町交流推進協議会の意見を調整し小学生の交換留学などの町民交流事業や産業祭へのじゃがいも、玉ねぎの提供の他、文化交流町内産給食食材の贈呈などを継続する。「記念訪問団の派遣」「記念誌の発行」「小学生交換留学生OB交流」「子どもたちによる交流事業」を計画している。

とは意味が違うと思う。開基120年記念のときに40人の町民を派遣したことも意味がある。訪問した経験のある人が自主的に個人的に行って交流事業を深めていることもあるが、町が税を使って派遣するのは意味があると思う。来年以降に自主的に行くことに対する支援の派遣費などの予算措置は今後支援をどこまでできるかということだと思う。



余湖 龍三 議員

コロナでげっそり！心も体もやり直した！

問 今後の交流として町民が自主的に津野町を訪問するにあたりその旅費の一部を補助し交流を盛んにする補助制度の考えは。

答 20年の交流は多大な意味がある。公でやることと個人でやること



高知県津野町

問

## ハイヤーサービス事業対象年齢の拡大は

町長

### 検討していく

問 高齢者ハイヤー利用サービス事業の実績は。

答 平成23年度の開始当初は実利用人数は135人、延べ利用回数1389回。現在は実利用人数352人、延べ利用回数8026回と5・8倍に伸びている。

問 高齢者ハイヤー利用サービス事業は、今では高齢者の足としてなくてはならないものとなっている。

対象年齢の拡大や免許証を持たない女性の世帯、免許返納世帯への対象拡大の考えは。

答 免許証を持たない世帯への拡大については、実態の把握に努めながら目的に沿った運用を検討していく。

